

令和 4 年度 教育行政方針演述

令和 4 年 3 月釜石市議会定例会において、高橋 勝教育長が「教育方針演述」を述べました。その中から主な項目をご紹介します。

令和 4 年度は、「強く生き抜く力の育成」魅力ある学校づくりを通して「を学校教育の目標に掲げ取り組んでまいります。

各学校が、児童生徒にとって魅力ある学校づくりに取り組む中で、子どもたちが学校に通うことを楽しいと感じ、仲間と切磋琢磨しながら、充実した学校生活を過ごせるようにしてまいります。そして、子どもたち一人ひとりに、自分の未来を切り拓く力、将来、社会の一員として社会の未来を創る力を育ててまいります。

(1) 「いのちの教育」の推進

「いのちの大切さ」を学校教育の根幹とし、全ての教育活動を通して、なによりも自他の命を大切に
する子どもたちを育みます。

(2) 確かな学力の育成

子どもたちに、「知識・技能」を習得させ定着させるとともに、

「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を育みます。そのために、より一層「わかる授業」を目指した授業改善に取り組みます。

(3) 豊かな心の育成

子どもたちに、学校教育を通して、「思いやりの心」「感謝の心」「奉仕の心」「互いの良さや違いを認め合う心」を育てます。そのために、道徳教育やキャリア教育、読書活動の推進、体験活動の充実を図ります。

(4) 健やかな体の育成

学校体育の充実を図りながら、運動への興味・関心を高めます。当市では、歯の健康の課題や、肥満傾向の子どもの割合が高いなどの課題があることから、健康教育の充実にも努めます。

(5) 学校と地域との連携の推進

学校と地域がより一層協力する仕組みとして、コミュニティ・スクールを令和 4 年度から導入します。

(6) ICT教育の推進

1人1台配備したタブレット端末を子どもたちの学びに効果的に活用します。ICT支援員を配置し、ICT教育を支援します。

(7) 生徒指導の充実

不登校・いじめへの対応など、教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、学校や家庭を支援してまいります。

(8) 特別支援教育の充実

特別支援学級や通級指導教室（ことばの教室等）の設置、特別支援教育に関わる教育相談や教育支援会議を通し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細やかな支援・指導を行います。

小中学校に引き続き、特別支援教育支援員を配置し、特別支援教育の充実を図ります。

(9) 郷土理解と郷土への誇りと愛着を育む活動の推進

地域の歴史や文化、産業などを学び、体験させながら、郷土への理解と郷土への誇りと愛着を育みます。

特に、鉄づくり体験について

は、令和 4 年度から、市内全ての中学校 1 年生に体験させます。

(10) 幼児教育の充実

幼児教育施設と小学校の学びの連続性を大事にしながら、両者の円滑な接続を図ります。そのために、幼・保・小連携研修会の開催や、幼児と小学生との交流活動の実施など幼児教育施設と小学校との連携に努めます。

(11) 教育環境の充実

子どもたちが安全で安心な学校生活を送ることができるよう学校施設の維持・管理に努めます。学校トイレの洋式化については、予算を勘案しながら、計画的に進めます。

少子化に伴う、今後の学校の適正規模・適正配置の検討につきましては、「釜石市学校規模適正化検討委員会」を設置し、検討を行っているところです。今後、検討委員会の協議を踏まえ、教育委員会としての考えを示してまいります。

なお、「教育行政方針演述」の全文につきましては、ホームページに掲載しております。

かまいし「コミュニティ・スクールの推進」

「学校」と「地域」がともに元気に！ その2

教育広報かまいし第66号では、令和4年度から市内全ての小中学校において、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を導入することについて説明しました。今号でも引き続き、「コミュニティ・スクールを導入して、どのような学校や子どもの姿を目指すのかについて説明します。

これまでも、学校では地域の力をお借りしながら様々な教育活動を行ってまいりました。しかし、現在、子ども達を取り巻く環境や、学校が抱える課題が複雑化かつ多様化してきています。そこで教育改革、地方創生からの観点からも、これまで以上に、学校と地域の連携・協働が重要になってきます。そのような社会総がかりの教育によって、子どもや学校の抱える課題の解決や、釜石の未来を担う子ども達の豊かな成長を支える仕組みが「コミュニティ・スクール」です。

次に、コミュニティ・スクールが目指す「地域とともにある学校の姿」とはどのようなものなのでしょう。3つ紹介します。

コミュニティ・スクール導入校では、地域の様々な方々で構成される「学校運営協議会」において、

【目指す学校の姿①】

保護者、地域、学校が「学校運営の基本方針」を共有している学校

各学校の基本方針や目指す子どもの姿について保護者や地域で共有し、強く生き抜く力を育むために未来志向で話し合います。

【目指す学校の姿②】

保護者、地域、学校で「社会に開かれた教育課程」を実現している学校

学習内容を組織的・計画的に地域とつなぐ教育課程をともに練り上げます。また、評価・改善を通して、子どもにとって本当に必要な力を育んでいきます。

【目指す学校の姿③】

保護者、地域、学校が一体となり、「地域総がかり」で子どもの成長を支える体制のある学校

「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」という理念を共有し、子どもの豊かな成長のために、各々が主体的に取り組んでいきます。

【熟議のテーマ例】

- ・子ども達がどう育って欲しいか。
- ・地域の力をどう子ども達の教育に生かすか。
- ・学校と地域が一緒にできる防災の取組みとは。
- ・郷土学習で何を子ども達に伝えるのか、など。

かまいし絆会議

～未来への第一歩～

岩手県はばたき賞受賞！

この度、かまいし絆会議は、『令和3年度第2回岩手県はばたき賞』を受賞いたしました。この賞は、岩手県の児童生徒等の模範となる行為や活動に対し表彰し、学校教育の一層の充実を目指すものです。

かまいし絆会議は、平成29年度から始まり、今年度で5年目となりました。釜石市内の小中学生が、地域や学校のためにできることを、仲間と共に考え、実践を積み重ねてきました。

世界中からの復興支援への感謝、家族や自分を支えてくれる人への感謝、未来への決意などの思いを込め、合唱曲やモザイク壁画、PRビデオ作成を行ってきました。

した。

東日本大震災から10年目の節目には、「かまいし絆宣言」を発信したり、被災したフイジーへの募金活動も行いました。また、地域に根ざした活動を目指し、清掃活動やあいさつ運動などの地域活動にも力を入れてきました。

そんな釜石市内の児童・生徒の主体的な活動が評価され、『はばたき賞』をいただいたことは、とても喜ばしいことであり、児童生徒の自信にもつながるものであります。これからも、子どもたちの主体的な活動が地域を盛り上げ、釜石がさらに魅力的な町に発展していければと思います。



市長への報告の様子

新メンバーによるかまいし絆会議開催！

12月27日（月）に、釜石市民ホールTEETTOで、新メンバーによるかまいし絆会議が開催されました。

今回は、今までの活動を振り返り、成果と課題を自分たちで見つめ、新たな1年間の計画を立てる



意見を共有する様子

ことをねらい、会議を行いました。コロナ禍でも、工夫しながら地域活動を行ったり、メッセージ発信をしたりなど、地域のために活動できたことが、成果としてあげられました。

一方、活動のねらいをどのように全校で共有すればいいのかわという課題もあげられました。かまいし絆会議が、全員参加の活動となるためにも、全校への働きかけが必要になります。一つ一つの活動の意味や価値を、みんなで話し合いながら取り組んでいこうと、参加者から前向きな意見が出されました。

今後、各校の計画案を交流し、釜石を盛り上げるような活動を考えていくことになります。

また、2月の大館市の小中学生との交流、かまいし未来づくりプロジェクトの方々との交流を通して、さらにリーダーが高い意識で、活動を推進していってくれることと思います。

このかまいし絆会議が、みんなの思いをのせ、さらに大きく成長していったほしいと思います。

令和3年度第44回釜石市教育研究所 研究発表大会を行いました

令和4年1月6日(木)に「令和3年度第44回釜石市教育研究所研究発表大会」がTETTOO(釜石市民ホール)で開催されました。

釜石市教育研究所は昭和53年に設置され、釜石市の中小学校の先生方や幼児教育施設の先生方が集まり、釜石市の子どものために様々な研究を重ねてきました。

昨年度は、コロナウイルス感染症の影響により、研究所の研究や研究発表大会は中止となりましたが、今年度は、感染症対策を講じ、213名の参加となりました。

釜石市教育研究所の今年度の研究は、「こころの教育研究班」「授業づくり研究班」「幼保小連携推進委員会」の3つの部会によって進められました。それぞれの部会は、市内小中学校、幼児教育施設から4〜5名の先生方によって構成されています。日常業務の傍ら、子どもたちのために、主体的に研究を進めていただきました。それぞれの部会の研究テーマと内容の一部を紹介いたします。

こころの教育研究班 研究テーマ

「学級における自己有用感を高める指導のあり方」
～児童生徒同士のかかわりを深める活動の工夫を通して～
児童生徒の実態把握をもとに、様々な領域における活動をつなげた「指導構想図」を作成し、認め合う活動と振り返り活動を意図的に設定することにより、自己有用感の向上につなげる研究。

授業づくり研究班 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びにつなげる授業の在り方」
～児童生徒のつまずきに対応した指導を通して～
子どもたちの「つまずき」に対する「分析」と「授業におけるつまずきの活かし方」について、授業実践を通して明らかにしていく研究。

幼保小連携推進委員会 研究テーマ

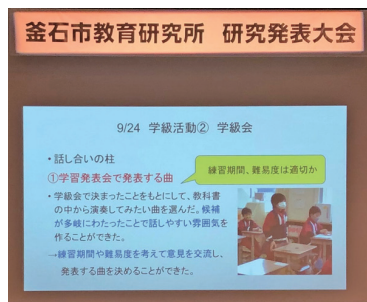
「互恵性のある幼保小連携のよりよいあり方を探る」
～子どもの発達や学びの連続性を捉えた交流のあり方～
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を共有した上での接続期のカリキュラムの設定と、園児と児童の交流活動への活用についての実践研究。

それぞれの研究成果の発表の後には、質問や意見が出され、活発な議論が行われました。

これら研究の成果を市内の小中学校や幼児教育施設に広げ、そこに通う子どもたちのために、教育実践を行うことを確認し、閉会となりました。

教育委員会は研究所運営を通して、先生方の専門性の向上と、釜石市内の子どものための学びをより良いものに変えていく努力を続けてまいります。

発表内容の一部



就学支援リーフレットを配布しました

より良い就学を迎えるために

教育委員会では、今年度、よりよい就学、適切な学びの場を決定するための一助となるような、就学支援リーフレットを作成しました。在籍している幼児教育施設から今年度の年中児のいる家庭に配布しました。

釜石市には、通常の学級のほか、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」があります。

子どもたちの困り感に合わせ、就学する場を適切に決定することが、その子どもの人生を豊かにします。

子どもたちの困り感に合わせ、就学する場を適切に決定することが、その子どもの人生を豊かにします。

早期の気づきにより良い支援の第一歩

〇これからの成長のために
周囲の理解や協力によって、その後の学習や生活のつまずきを軽減しやすくなる可能性があります。

〇お子さんをよく見て、でも心配し過ぎず早く気づくことで、早期からの支援が可能になります。

〇一人一人に合った子どもの発達は一歩一歩あります。その子の成長の様子に合わせた支援を行うことが大切です。

入学までの流れ

入学までの流れは、入学前(4月～11月)と入学後(12月～3月)の2つの段階に分かれます。

入学前(4月～11月)は、入学前検定や入学前検定結果に基づいて、入学後の学びの場を決定します。

入学後(12月～3月)は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

入学後の学びの場は、入学後の学びの場を決定します。

学校給食センター事業

令和3年度献立募集

入賞作品決定

令和3年度献立募集の入賞作品が決定しました。

この事業は、メニューをお家の方や友達と考え、料理を作ることを通して、自然や食べ物への関心を育み、生涯にわたって自らの健康管理ができる児童・生徒を育てることを目的としています。

今年度も昨年度同様、「ぼくの・わたしのおすすめ汁物」として料理を汁物に限定して募集を行いました。

小学校48作品、中学校33作品の応募がありました。具沢山なもの、かみかみ食材を使ったもの、減塩を意識したものなどアイデアに満ちた作品が集まりました。

その中から、厳選なる審査を行い、入賞作品が決定しました。

今年度も残念ながら新型コロナウイルスの流行のため、表彰式は開催できませんでしたが、賞状と記念品を各学校で授与していただきました。

入賞者は次の通りです。

※氏名等の公表について了承を得た方のみ掲載しております。

小学校の部

【最優秀賞】

『おかずにもなる

さばかんみそ汁』

釜石小学校6年

成田 こはねさん

【優秀賞】

釜石小学校6年

玉木 那奈さん

釜石小学校6年

松村 聖莉さん

甲子小学校5年

菊池 寛人さん

鶴住居小学校2年

山崎 愛加さん

中学校の部

【最優秀賞】

『かんたん主食！

栄養たっぷりトマトスープ』

釜石中学校2年

伊藤 珠奈さん

【優秀賞】

釜石中学校2年

田村 優空さん



《釜石市学校規模適正化検討委員会が

開催されました》

学校規模適正化検討委員会は、学校関係者、保護者、学識経験者等の委員で構成され、市内小中学校の適正規模や適正配置を検討するため設置されています。これまで、「当市の学校、児童生徒の現状と今後の推移」、「子どもたちにどのような力が必要か、備えたい資質・能力は何か」、「小規模校のメリット・デメリット」について議論を重ねてまいりました。

【第4回検討委員会】

令和3年11月26日（金）に、「学校の役割」を議題として開催されました。

子どもたちに目を向けた「学校の役割」としては、基礎学力・知識や学ぶ姿勢を身に付け、学ぶ楽しさや向上心を育み、集団生活・行動を学び実践しながら、コミュニケーション能力を培う大切な場であること。自らを「大切な存在」として認識する自己肯定感を育み、将来において参画する社会生活の中で幸せになる力、多様な変化に対応する力、問題の解決方法を考える力を身に付ける場所となる等の意見が挙げられました。

地域や社会といった目線から見た「学校の役割」としては、安全安心な地域や防災の拠点、地域と人をつ

ながくコミュニティ形成、交流の場所になっており、地域においても大切な役割を担っていることも再確認されました。また、地域が一体となつて子どもたちを育て、地域と共に学ぶ環境としての学校の役割にも着目することが大事との意見がありました。

【第5回検討委員会】

令和4年2月15日（火）に、「部活動」及び「学校と地域との関わり」を議題として開催されました。

「部活動」については、事務局より、生徒数の減少により、大会では合同チームでの参加となる場合があること、小規模校では種目が限られること、学校によっては廃部を行っている等の説明がありました。委員からは、部活動の意義・目的についての質問や合同部活動などの工夫ができるのではないかと意見がありました。

「学校と地域との関わり」では、実践例の紹介や、コミュニティ・スクールの導入を踏まえ、学校と地域の一層の連携が求められること、学区が広い中学校や高等学校からは、学区が広くても地域との連携を図ることは可能であるとの意見がありました。